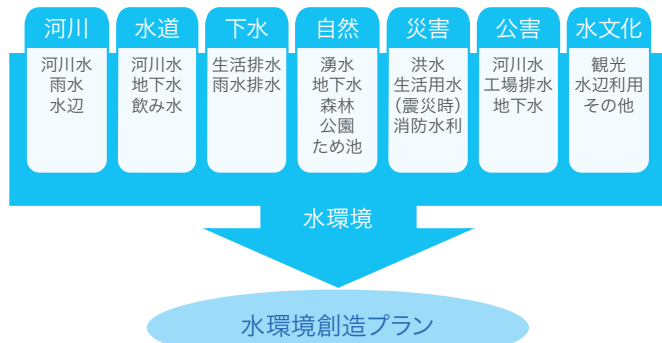




① 水環境創造プランの策定範囲 ② 鳥川ホタルの里でホタルの保全活動の中心となっている岡崎市ホタル学校 ③ ホタルの保護・育成活動（ゲンジボタルの幼虫の放流）の様子 ④ ホタル学校で環境学習に取り組む小学生たち



上下流交流による水環境と森林保全の取組

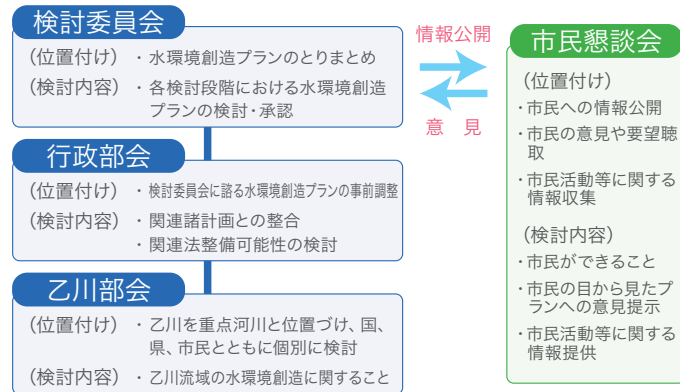


森林の多くは、高齢化による林業従事者不足などにより必要な森林の手入れを行うことが困難になっています。私たちの生活に不可欠な「水」は、森林がもたらす恵みの一つであり、森林が適正に管理され水源かん養機能を発揮することで得られるものです。その水源かん養機能の維持・向上を図るため、間伐や積極的

な木材利用を推進しています。また、「岡崎きこり塾」を結成し、人材育成と活動者の拡大に取り組んでいるほか、「森林・林業体験プログラム」などのイベントを実施し、地域住民、ボランティア、企業を交えた森づくりが進められています。この森の恵みによる清らかな水辺には、市内各所でゲンジボタルが生息しています。旧額田町の鳥川ホタルの里で、地域ぐるみでゲンジボタルの保全活動を行っているのが、「岡崎市ホタル学校」です。環境教室や各種イベント、ホタル保護・育成に関する活動などが、自然やホタルへの理解や知識の向上につながっています。

水と森とホタルの取組

然、災害、公害から水文化までの水に関わる全ての事項を含みます。以下では、これら多岐にわたる取組や今後のプランに位置づけられる取組を紹介します。



岡崎市水環境創造プランの検討体制

多様な主体で進める体制づくり
岡崎市では、「岡崎市水環境創造プラン」策定のために「検討委員会」、「行政部会」、「乙川部会」、「市民懇談会」を設置して検討を進めました。プラン策定後は進捗管理を行う主体として、学識経験者、関係団体、公募市民などで構成される「岡崎市水循環推進協議会」を設立しました。さまざまな立場から意見が出されることで、より高度なPDCAサイクルの実現が図られています。



間伐体験を通じて、森の環境や手入れの大切さを熱心に学ぶ子どもたち

case 03 多様な主体の連携事例
岡崎市（愛知県）

将来に向けた水づくりと森づくり

多様な主体で進める水と森の取組

「里川」のまちの実現へ
岡崎市は、水を育む山や豊かな緑と、そこに棲む動植物が豊かな「里川」のまちの実現と定着を目指しています。「里川」とは、「人々にとつての身近な川」を指す新たな言葉です。その活動は、河川、上下水道、自

愛知県のほぼ中央部に位置し県内有数の中核都市である岡崎市では、矢作川、乙川の清流が、魅力ある景観を醸し出しています。
上流の旧額田町では古くから林業が盛んで、下流の旧岡崎市は文化・経済の中心地として栄えてきました。2006年にその2市町が合併したことを契機に、2008年に「岡崎市水環境創造プラン」が策定され、将来に向けた水環境を創造する取組が始まりました。



「鍵」その1 将来の水環境に向けて
「鍵」その2 地域の人材の発掘と活動
「鍵」その3 地域の人材の発掘と活動
「鍵」その4 地域の人材の発掘と活動

乙川の下流域を含む旧岡崎市では、都市へ人口や産業が集中し水質汚濁などが生じ、上流域の旧額田町は山林の荒廃や耕作放棄地の増加などにより、環境の悪化や保水力の低下などが課題となっていました。

旧岡崎市と旧額田町の合併を機に、身の回りの「水」に関するについて、将来のあるべき姿とその実現性に向けた取組の方向性を検討しようとして、2006年4月に「岡崎市水環境創造プラン」の検討が開始し、2008年3月に「岡崎市水を守り育む条例」とともにプランが策定されました。合併後の庁内では、各部署が別々に動いていたため、それをまとめようという発想が生まれ、当時の部局トップの英断により、2008年8月に「岡崎市水循環推進協議会」が発足しました。

この取組は、庁内の職員が水循環や水環境の思想をみんなで理解するところから始まりました。そのため、検討委員会に部長、課長、班長といったそれぞれの立場の人が携われる常時部会として、乙川部会および行政部会を設置しました。

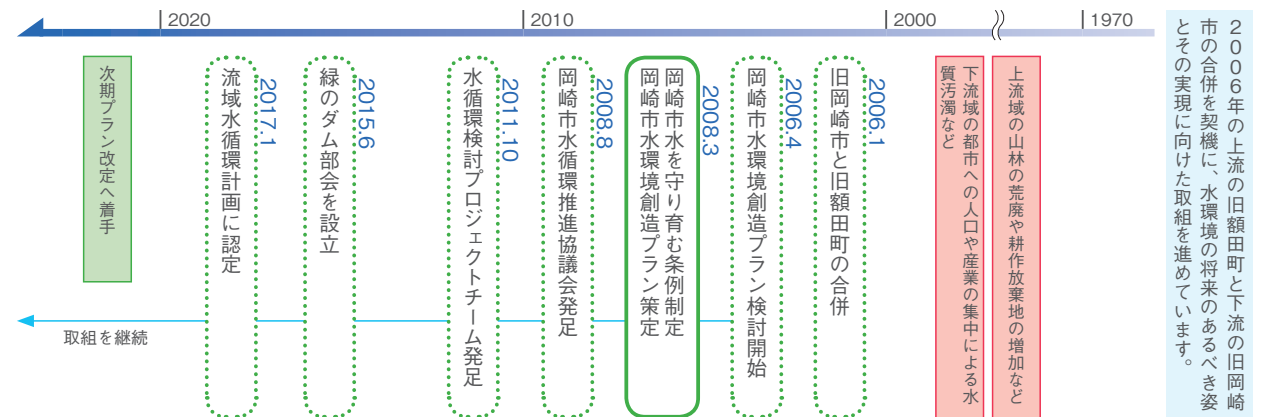
ともに、普及啓発活動の強化につなげ、市民への情報提供、啓発、教育に参画できる仕組みづくりを行っています。科学的データを取得し、分析していくことは、事業を実施していく上での根拠となり、地元の方々へ説明していくことで事業への理解につながります。

「鍵」その1 将来の水環境に向けて
「鍵」その2 地域の人材の発掘と活動
「鍵」その3 地域の人材の発掘と活動
「鍵」その4 地域の人材の発掘と活動

地元でホテルの保全活動を進めるホテル学校のホームページでは、地元の方が毎晩ホテルの飛翔数を調査した結果をまとめた「鳥川のホテル飛翔数」のページが好評を博しています。各種情報誌・マスコミなどの取材によるPR効果が好循環となっており、毎年約3万人の観光客が市内や名古屋などからホテルを鑑賞にやっています。

また、「この活動の推進には、市内にホテルの生地に詳しい専門家の方がいらしたことが大きく、ホテルサポーター活動という講座でホテルの幼虫飼育法など、積極的にホテルの保護・育成の知識や技術を広めてくださっています」とホテル学校職員の唐澤晋平氏は話します。このよう

これまでの取組



また、主任、主査クラスの若手職員を中心とした「水循環検討プロジェクトチーム」を立ち上げ、定期的に会議を進めることで、将来の水環境、水循環行政を担う人材の育成にも着手しています。この会議では、各部署を代表する若手職員が委員を務め、その職員が中心となって課題の整理やプランの原文の作成などを行っています。

さまざまな階層の庁内関係者の相互理解が深まった中で、2020年に向けた次期プラン改定に着手することで、水環境や水循環に関して、より深い議論が展開されるようになりました。

「鍵」その2 取組のバックグラウンドとなる科学データ

2015年に「岡崎市水循環推進協議会」に対して「水量」に関する施策の再構築について意見を求める旨の諮問が行われました。その諮問に対する答申を検討するため、同協議会に東京大学の蔵治光一郎教授を部会長とした専門部会「緑のダム部会」が設置されました。

そのきっかけとなったのは、山が荒れている、河川の流量が少ないと

いった地元の人からの声でした。

この地元からの声に応えるために、森林整備が水源かん養および雨水流出抑制など水循環に与える効果の科学的知見を得ることを目的に、水循環影響調査によるモニタリングの必要性を答申に盛り込み、他の施策と



岡崎市水循環推進協議会「水量に関する答申」(概要)

水量を取り巻く現状

森林の荒廃など
河川の水位が減少傾向
洪水による被害
(2000年東海豪雨、2008年8月末豪雨)

課題及び解決の方向性

間伐の推進
敷地境界及び森林所有者の明確化
林業の振興
森林保全の重要性の啓発
間伐・木材製品の利用促進
財源の確保

何をしていくべきか？

提言

水循環影響調査によるモニタリング
放置人工林における水源かん養機能の向上
啓発事業の強化
敷地境界及び森林所有者の明確化
里山の保全

実現するために……

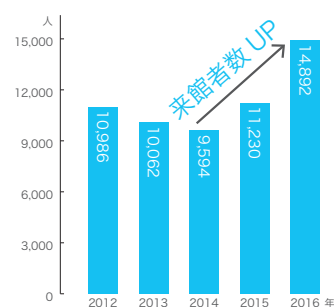
水源かん養基金の創設
地域の特性に合わせた森林整備
既存計画の適切な運用と見直し

らう努力を続け、少しずつ人の輪を広げていく。

このような誠実な取組により、鳥川ホテルの里湧水群は環境省の平成の名水百選に選定されており、鳥川住民の誇りにつながっています。



鳥川湧水群「延命水」



ホタル学校来館者数



ホタルシーズンのホタルまつりの様子

Key
Person

[将来を担う若きリーダー]

額田木の駅プロジェクト 事務局長
からまわ しんべい
唐澤 晋平 さん

【略歴】 額田木の駅プロジェクト事務局長のかたわら、市の嘱託員として2015年よりホタル学校の運営に携わる。市内のさまざまなイベントや環境学習等の活動において中心的な役割を果たしている。

ホタル学校の取組で

心がけていることはありますか？

イベントの実施にあたって、地域の住民の方やホタル保存会との連携、市内の活動のサポート、市外のネットワークの構築が重要と考えています。

また、鳥川ホタルの里にホタルを見に来ていただいた方には、ホタルを鑑賞するばかりではなく、環境や生態系の考え方、自然と普段の生活のつながりなどを勉強、意識していただけるように心がけています。

取組の中で、アピールする点、手ごたえを感じている点は何ですか？

地元の鳥川ホタル保存会では、ホタルシーズンやイベント時には、地元産の「ホタル米」、「とっかわ産木炭」を販売しています。地元の地道な活動により、リピーターや鳥川ファンが着実に増えているのを感じています。

学校の運営で

苦勞されている点は何ですか？

苦勞している点は、自然相手、生き物相手なので、予測ができないことです。例えば、ホタルの幼虫の放流式に必要な数の幼虫が上手く育たない、イベント時が雨天だったということがよくあります。自然相手、生き物相手なので、そういうものだと思います。

今後の活動の抱負を聞かせてください。

岡崎市の豊かな自然をもっと多くの人に知ってほしい。そのために、小学校の環境教室や森林環境教育の取組を広げ、岡崎市の将来を担う次の世代につなげていきたいし、鳥川で地道にやってきたことを、今のペースで続け、地域の輪を広げていきたい。

活動の成果

「名水百選」選抜総選挙
「秘境地としてすばらしい名水」
部門1位獲得！

2016年3月に実施された環境省「名水百選」選抜総選挙の中で、観光地部門、景観部門、秘境地部門、おいしさ部門の4部門で行われた国民投票の結果、見事、「鳥川ホタルの里湧水群」が秘境地部門の第1位を獲得しました。

鳥川の名水は水汲み場が整備されており、水を汲む人が絶えない延命水として知られています。

注目1 みんなで参加する「行動する乙川サミット」

水環境創造プランでの目標達成に向けて「乙川サミット」を設立・開催。参加団体の活動報告や意見交換を毎年行っています。相互の連携を深めるために年3〜4回の会議を行う中で、みんなで連携した活動をしたいとの意見があり、「行動する乙川サミット」として活動しています。

竹林伐採、森林間伐、河川清掃など、民間団体が別々にやっていたことを一緒に実施するために、行政の声かけや事務的なサポートなど行政も一緒に行動することが上下交流の促進につながっています。

注目2 森と地域経済を元気にする活動

岡崎市の森を元気にする活動に「額田木の駅プロジェクト」があります。これは、間伐した木材を通常より少し高く買い取ることで森林整備を促進する仕組みです。

森の駅では、木材の買取代金を現金でなく地域通貨「森の健康券」で支払います。山の恵みが通貨となつて地元の商店をめぐること地域経済の活性化に貢献しています。

また、中日新聞でも地元小学校で実施した木の駅の体験の様子が紹介されるなど、環境学習の場としても注目度が高まっています。



11 市民協働事業「菅生川草刈一斉清掃」の様子



12 地域通貨として利用されている「森の健康券1,000mori」

注目3 市民が主体となるおとがわプロジェクト

「おとがわプロジェクト」とは、乙川リバーフロント地区整備計画を親しみやすくした別称です。岡崎市と市民の連携による推進体制の構築を図り、ワークショップを通じて市民側から提案を行うことで、市民や民間事業者が主体となったまちづくりの実現を目指しています。ワークショップでは、市民有志が「かわまちづくり」などの4つのテーマに分かれ、まちの課題を抽出し、専門家や行政も交えてそれらを解決する事業計画を練り、市長へ提案発表を行いました。そこで提案され民間主導で実現を図る事業が先導的の事業です。

その事業の一つに、乙川を「わ！楽しい！」がつまった場所に変える水辺空間活用の実験的プロジェクト「おとがわ！ンダーランド」があります。さまざまな活動内容は、NPO法人岡崎まち育てセンター・りたが運営するHPで紹介されています。

この「おとがわプロジェクト」において、乙川を中心とした地域の交流・活動のためのいろいろなイベント企画が立ち上がっています。



13 愛知県岡崎市「2017.07.07 おとがわ！ンダーランドに乾杯」14 おとがわ！ンダーランドの「殿橋テラス」の様子



13